

小ギクの花蕾は3 mmを超えると肥大速度が一定となる

福島県農業総合センター 作物園芸部 花き科

部門名 花き一キクー生育診断予測

担当者 鈴木詩帆里、鈴木宏和、熊谷千敏

I 新技術の解説

1 要旨

小ギクは仏花として使用されることが多く、需要の多い時期である8月上中旬や9月中旬にどの程度出荷できるか予測が可能となれば、販売戦略を立てる上で大きなメリットとなる。そこで、小ギクの開花に至るまでの蕾の肥大推移を調査し、花蕾径が3 mmを超えるとその後の肥大速度がほぼ一定となることを明らかにした。

- (1) 花蕾径と開花までの日数の関係性は、発蕾直後に花蕾の肥大が緩慢となることからシグモイド曲線を示すが、花蕾径3 mm以降から開花までに限定すると直線に近くなる(図1、図2)。
- (2) 品種によって、1日あたりの肥大程度は異なるが、本関係性はいずれの場合でも同様の傾向を示した(図1、図2)。
- (3) 8月盆出荷作型、9月彼岸出荷作型などの作型によって、1日あたりの肥大程度は異なるが、本関係性はいずれの場合でも同様の傾向を示した(データ省略)。
- (4) 花蕾径はデジタルノギスを用いて頂花を計測した。

2 期待される効果

- (1) 本知見は開花予測技術の開発などに活用することができる。

3 適用範囲

- (1) 行政関係者、研究者、県内小ギク産地

4 普及上の留意点

- (1) 本知見に基づいた精度の高い開花予測技術は現在開発中である。

II 具体的データ等

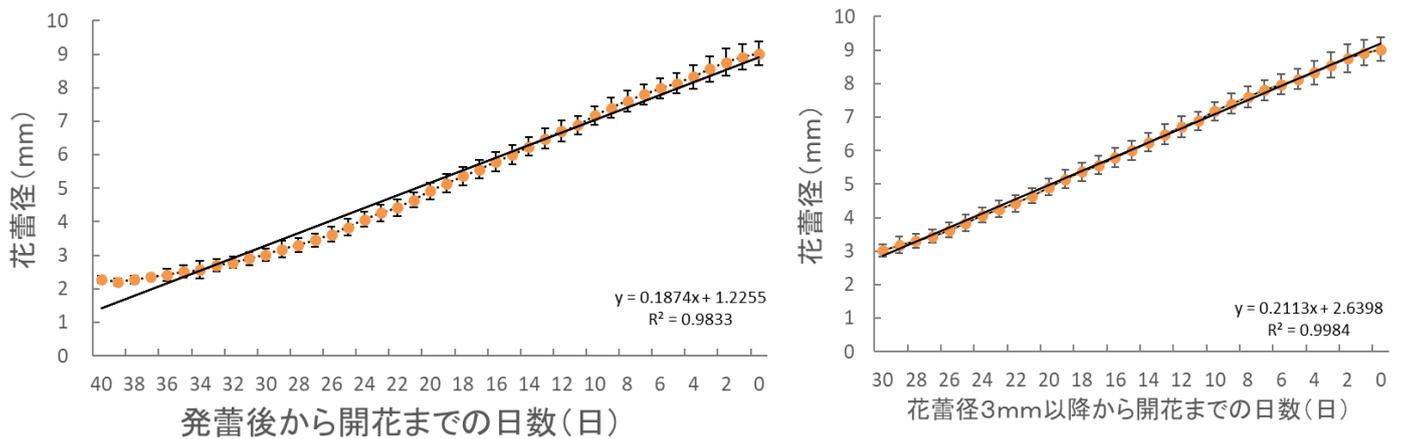


図1 「精こまき」(無電照)の花蕾径と開花までの日数の関係性

注) 図中の標準偏差は $n=36$ 、開花までの日数が 40~33 日までは $n=2\sim33$

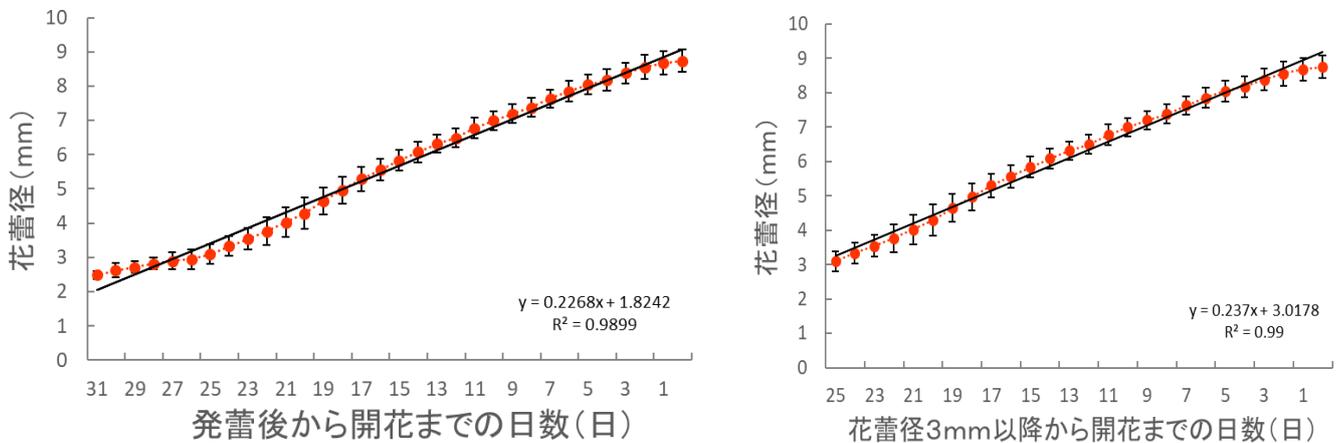


図2 「精ちぐさ」(電照)の花蕾径と開花までの日数の関係性

注) 図中の標準偏差は $n=35$ 、開花までの日数が 31~26 日までは $n=2\sim34$

III その他

1 執筆者

鈴木詩帆里

2 成果を得た課題名

(1) 研究期間 平成 30 年~令和 2 年度

(2) 研究課題名 花きの計画生産・出荷管理システムの実証研究

[食料生産地域再生のための先端技術展開事業 (JPJ000418)]

3 主な参考文献・資料

なし